

# 三野中学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 1 主体的・対話的な授業づくりを通して、深く学ぼうとする生徒を育成する
- 2 授業のユニバーサルデザイン化により、全ての生徒に「分かりやすい授業」を実践し、基礎・基本的な学力の定着を保障する（三野中スタンダードの実践）

## 学力向上検討委員会構成

<b>学力向上推進員</b> 平尾昌彦 (3年主任・担任)	<b>委員</b> 熊澤浩己校長 河野昌紀教頭 竹谷真人(教務主任) 西野 猛(2年主任) 佐藤秀樹(1年主任)
-------------------------------------	--

**校長** 熊澤 浩己

### 【取組状況の把握方法】

教員相互の授業参観や年間4回(7・10・12・2月)の教員による報告などから取組状況を把握し、PDCAのサイクルによってプランを実践する

## ◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して前向きに取り組み、自分なりに答えを導き出すとする生徒が多い。 ○ペア学習やグループ学習の際の、話す・聞く姿勢がよく、課題の解決に向けて協力ができる。 ●基本語や抽象的な言葉での表現が多く、語彙が少ない傾向にある。 ●学習や生活上の課題について、課題を整理し、解決のための方策を立てることに課題がある。	・課題について、構想や予測を立てて実践し、工夫・改善することができる。 ・自分の意見や考えを、既習の内容と関連づけたり学習用語を使ったりして、表現することができる。 ・社会的・科学的事象や自分の経験等について事実を正確に表現することができる。	・「三野中スタンダード」①焦点化(目標の明示)・②視覚化③共有化④つまづきの想定と支援等の実践に努め、授業のユニバーサルデザイン化を図る。また、タブレットPCの効果的な活用について協働して研修を進める。 ・授業時間ごとや単元ごとに、学び合いの機会を設けるとともに、学びの確認や振り返りを位置づけた授業展開を行う。	・授業の最後に振り返りの時間を確保するように努め、知識の確実な定着を図る。 ・オンラインによる学習環境の確認および整備を進める。	・課題について構想や予測を立てるという点に関しては、実践できた生徒とできなかった生徒に分かれた。 ・どの学年も、必要に応じてオンラインでの授業ができるよう整備し、実践できた。 ・グループ学習などを効果的に取り入れ、深い学びや主体的な学びにつなげることができた。	・授業の振り返りの時間をしっかり確保し、内容の濃い振り返りを行う。 ・既習用語等を確認する機会を増やす。 ・タブレットPCの効果的な活用についての教員研修を実施する。 ・対話や紹介文などを用いた表現活動の積極的な推進を図る。

### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○社会的・科学的事象や自分の経験等について事実を正確に表現することができる。 ○課題の解決に向けて前向きに取り組もうとする意欲がある。 ○聞き手を意識して、よりよい表現方法を工夫しようと努めている。 ●複数の資料を関連付けて表現することが苦手な生徒が多い。 ●課題解決に向けての道筋や計画を選択したり評価して決定したりする力が弱い。	・社会的・科学的事象や自分の経験等について事実を正確に表現することができる生徒。 ・学習や生活上の課題について、考えるための技法を活用するなどして課題を整理し、解決のための方策を立てることができる生徒。 ・課題について、習得した知識や経験に照らし合わせて考えを形成し、自分の考えや思いを根拠等を明らかにしながら適切に表現することができる生徒。	・思考ツールや図解などを活用し、その枠組みで、課題を整理したり、自分の考えを説明したりする学習活動を多く取り入れる。 ・相互授業参観等の研修を実施し、全教職員が深い学びにつながる発問の技能を高める等の具体的な授業改善を進める。 ・課題解決学習において「構想・予測・課題の設定⇒実践⇒評価⇒工夫・改善」の学習の過程を取り入れる。	・生徒自身が説明する機会を多く作るようにすることで、思考力や表現力の向上を図る。 ・毎学期、相互授業参観の期間を設ける。 ・生徒自身が学習の見通しができるように単元や授業の最初に学習計画を示す。	・思考ツールや図解などを活用し、その枠組みで、課題を整理したり、自分の考えを説明したりする学習活動を多く取り入れるという点に関しては、実践の状況に課題が残った。 ・相互授業参観等を通して、教員の授業スキルアップを図ることができた。 ・授業のユニバーサルデザイン化を意識した授業展開ができた。	・生徒に見通しをもたせるための思考ツールの開発やその活用を推進する。 ・深まりのある活動をさせるための具体的方策を確立し、全教員で共有する。 ・指導改善に関わる校内研修の充実を図る。 ・相互授業参観等の継続した実施と、その際の「授業感想カード」の積極的な活用を行う。 ・前時とのつながりを確認できるような板書・ICTの積極的な活用を図る。

### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「三野中学学力向上計画」を活用して、学習計画を立てたり、定期テスト後に自己の取組を振り返ったりし、よりよい学習方法を身につけようとする事ができる。 ○朝の読書が定着しており、また、図書室の利用が盛んである。 ○ICT機器を効果的に活用することができる。 ●難しい課題に対し、調べたり試行錯誤したりして答えを導き出そうとする力が弱い。 ●家庭学習を含め、課題を提示されなければ主体に物事に取り組むことができない生徒がいる。	・目標をもって学習に粘り強く取り組む生徒。 ・学校の学習内容や社会・科学・人の生き方について知的好奇心を持ち、探究心のある生徒。 ・学習したことを、生活や生き方につなげようという意識をもって学ぶ生徒。 ・ICT機器を効果的に活用できる生徒。 ・既習した内容をうまく応用して課題解決につなげることができる生徒。	・定期テストにおいてPDCAサイクルの考え方を取り入れた「三野中学学力向上計画」を記入させ、テスト後、自己の取組を振り返って次につなげるように促す。 ・朝の読書の時間に週に一回程度、新聞を読む日を設け、社会や科学・人の生き方への興味関心を育てる。 ・ICT機器を活用した効果的な教材の開発をめざす。 ・質と量のバランスのとれた課題を出し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。	・学習後に自分にどんな学びや変化があったかを整理してまとめさせることで、次の学習につなげようという意欲をもたせる。 ・生徒向け新聞「あわっこタイムズ」の効果的な活用を図る。 ・電子黒板の積極的な活用を図る。	・定期テスト終了後に「三野中学学力向上計画」にふりかえりを記入させ、今回の反省や次回に向けての課題をイメージさせることができた。 ・毎週一回、朝の読書の時間を活用して「あわっこタイムズ」を読み、関心をもった記事の感想を書かせる活動を行った。 ・多くの教員が、質と量のバランスの取れた課題を意識して出すことができた。	・「三野中学学力向上計画」をファイリングし、生徒の学習意欲向上や学習課題の把握に効果的に活用する。 ・新聞を読む日を毎週一回、全学年で統一し、同一記事についての意見・感想を書かせる活動を行う。 ・今年度導入された電子黒板を、タブレットPCと連動させるなど、より効果的な活用を推進するための教員研修を実施する。

## 令和5年度 学力向上ロードマップ

